西東京市市民協働推進センター

令和６年度第３回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和６年７月16日(火)午後７時～８時
■開催場所：オンライン（Zoom）開催
■出席委員：川村委員、久松委員、山本委員、濱野委員、竹内委員、犬飼委員、間瀬委員<以上７名>
■事 務 局：樫出センター長、鈴木副センター長、塚澤地域福祉推進係主任

1.報　告　事　項

1．事業報告について

事務局より、5-6月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談について説明があった。

委員長：相談が多いようだが、最近の傾向などはあるのか。

事務局：参加できる団体はないか、団体を立ち上げたいが、どのような法人格を選択したら良いか、法人の解散を考えているなどの相談があり、動きが出てきているように感じている。

委　員：NPOパワーアップ講座に参加した感想だが、とても分かりやすくすぐに活かせるような内容で、コンパクトでありながらも情報が豊富で充実していた。終了後に少し交流の場があると横の連携、ネットワークが繋がったのではないかと感じた。今、実際に動いている方の参加が多かったのではないか。

事務局：終了後、登録団体ではない参加者がゆめこらぼに立ち寄られた。講座内でブログでの発信が助成金を取得するのに有効だとの話があり、ゆめこらぼでブログの作り方講座などもあれば良いなど意見をいただいた。スタッフの勉強にもなるので、サロンを活用し少人数を対象に勉強会など出来ればと考えている。

2．４月以降の事業について

事務局より、７月以降の実施事業について説明があった。

委員長：主催事業も活発になっているようだ。

事務局：団体交流会は、今回はU29チャレンジ部門の採択団体にも発表を依頼している。西東京市の活動団体を知ってもらう機会になると考えている。

2．審　議　事　項

1．前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

3．協　議　事　項

1．ゆめこらぼについて

事務局より、「ゆめこらぼ」の認知度アップについて（案）について説明があった。

委員長：インスタグラムのハッシュタグはどのようなものを付けているのか。

事務局：関連のワードを付けている。

委　員：ターゲットはどのあたりなのか。年齢層とか認知度という意味で登録団体の近くにいる方か。若い方々や今まで全く知らなかった方がターゲットなのか知りたい。それによりアプローチの方法が若干違うのではないかと思う。

事務局：登録団体の方々は高齢化しており、これから西東京市で活動したいと考えている方、大学生や高校生など、今後につながる方をターゲットにしたい。今活動している団体でゆめこらぼを知らないという方もターゲットにしたいが、活発に活動している方々とつながっていければと考えている。

委員長：ターゲットを絞ることは考えて欲しい。

委　員：Ｘはだれがリポストするかで、広まり方が違う。ハッシュタグの付け方でも閲覧数にも違いが顕著に表れる。情報をなるべく頻繁に上げていくことや、登録団体がＸにあげている情報があればコメントを入れてリポストすると違ってくる。

委員長：ハッシュタグを見てみたが、ワードが少ないようだ。ズバリのワードだけではなく、膨らませた広い意味で取られるようなワードも入れてはどうか。

委　員：Ｘは誰がリポストするかで見る人が変わってくる。見てもらうのは難しいので、各種団体が横につながることが大切だと思う。イベントがあればリポストする。各団体と横につながることは有効だと思う。リポストして大丈夫なものかどうかだけ判断が必要だが、登録団体の方に対してはリポストしてはどうか。

委　員：相互にリポストすると随分違うと思う。Ｘは開設したほうが良いと思う。市の公式アカウントでのリポストはしてもらえれば影響力が強いのではないか。

事務局：市役所の公式 SNS は、リプライ、リポスト、フォローは行わない運営となっている。ゆめこらぼの情報は依頼すると情報発信してもらえる。

委　員：認知度アップについてはセンター長決裁の位置づけなのか、運営委員会決定での位置づけなのかで違うのではないか。運営委員会決定だと扱いに違いが出てくるのではないか。認知度アップとして運営委員が決定した場合、当事者として何ができるのか検討する場面も出てくるのではないか。認知度アップの具体的なアクションプランを作り、何が出来るのかという意見が出てくると思う。事業の開催により認知度を上げるのか、円卓会議などターゲットを絞って認知度を上げるための意見をもらう事もできるのではないか。SNS 以外の認知度アップの仕方もあるのではないかと思う。行動計画を作るなら目標を具体的に示すことを考えていくと面白いと思う。我々は意見を言っておしまいなのか、メンバー一人一人が認知度アップについて何をしたら良いのか考えるものにするのか。それにより広がりが出てくるのではないかと思う。職員のマンパワーを考えると運営委員として何が出来るのか視野に入れて考えていく必要があるのではないかと思う。

委員長：今回の会議で出た意見はどのような扱いになるのか。

事務局：意見を頂き、センター内でどのように動けるのか検討することとしたい。

委　員：自分の仕事でも、X、Facebook、Instagram を掲載するものを使い分けているが、広めるのは大変だと感じている。アップする写真は、写りが良く、鮮やかに加工することにより、いいねが増えることもある。くすっと笑えるショート動画も良いのではないか。

委員長：過去にアップしたものを振り返り研究してはどうか。

委　員：前の部署で福祉の仕事の魅力を中高生に伝えることがあった。仕事の魅力をこちら側の言葉で伝えても伝わらず次のアクションにはつながらない。ゆめこらぼの特徴など話してもつな

がらない。広がっていくものの特徴としては、ストーリー性のある話題は聞いてもらえる。話せるツールや動画を準備し、話し手を増やすこと、そこまでお膳立てをすることは有効になる。仕掛けが必要だと思う。

委員長：登録団体に自分たちの活動を紹介してもらう場をつくり、ショート動画に出てもらうことで少なくとも団体の人は見るのではないか。

事務局：取り組みとして面白いがどうやったら良いか考えたい。

委員長：新しい団体は出たいと思うのではないか。

委　員：交流会の場を活用できないかと思う。団体の一部の人はゆめこらぼを知っているとは思うが、団体全員が知っているわけではないので、つながっている人から広めてもらうのも一案だと思う。

事務局：「つながる」は、ゆめこらぼの一つのテーマである。SNS も一つのツールとして、実際の事業の中でもつながって一緒になって広めていけるように出来ることから取り組んでいく。このことは、また運営委員会で報告していく。

委員長：ゆめこらぼに登録してよかったという話がアピールできると良い。どこでもゆめこらぼの登録団体であることによる信頼が生れると認知度も上がっていくことになる。

事務局：ゆめこらぼに登録することでつながりのきっかけになると良い。

委　員：団体交流会でもこういうことをして欲しいなどのリクエストを聞き、そのリクエストに応えていく報告をすることで好感度がアップするのではないか。

委　員：団体交流会でゆめこらぼに何を求めているのかを聞くなど、団体が発信したいことを発信できる場としてお手伝いすることにより団体にとって価値が出て、口コミでも認知度も上がっていくと思う。

委　員：団体交流会は一つのチャンスなので、ゆめこらぼがあったからこんなことが出来たなどを発信する場としても良いと思う。

委員長：団体交流会が認知度アップの何かにつながると良い。それを写真でアップすることも出来るのではないかと思う。

そ　の　他

1．次回運営委員会日程について

日時：令和 6 年 10 月 21 日（月）19 時～20 時

会場：オンライン（Zoom）